

『 テーブルウェアをコーデする 』

千葉県立千葉西高等学校 工芸 柴田 雅乃

第1学年 2単位

1. この授業で付けたい力

- ・陶芸の制作方法の特性を理解し、自己の作品表現に最も合う方法を選択することができる。
- ・金属加工の鍛金について、材料の特性と加工方法について学習する。
- ・使う場面を想像して求められる機能を考え、意図に応じた制作ができる。

2. 題材の目標

・素材の違う陶芸『カップ&ソーサー』と金属工芸『ティースプーン』の制作を通して、生活の道具として客観的視点から使用する人の気持ちになり機能を考え、一つの道具としてコーディネートし生活や暮らしを豊かにする工芸の働きについて理解を深める。

陶芸: カップ&ソーサーをつくる (6時間+施釉2時間)

配付粘土: 信楽特漉し 約 600g ~ 800g 程度

- ・カップのサイズに条件を加える。120cc~150cc 程度の容量が入ること。取っ手を付けること。

《各作業テーブルに用意している道具》

切り針金 平線かきべら 細工かな
なめし皮 ゴムかきべら 陶芸カッター
木製かきべら アルミこて



各机にセットしている道具



素焼き前のカップ&ソーサー



完成

3. 年間学習指導計画

工芸 I 学習内容	
1 学 期	シラバス説明 図法 手芸 和紙染め ・切り絵基礎編・応用編 ・ファイナル制作 染色 (藍染め) ・エコパックを絞り染めする 自己評価
2 学 期	土でつくる ・荒練り、菊練り 手びねり「湯呑みをつくる」 ・付け高台 板づくり「マグカップをつくる」 ・ドペを使って取っ手を付ける 紐づくり「器または花器をつくる」 ・削り高台 『テーブルウェアをコーデする』 制作方法選択 「カップ&ソーサーをつくる」 ・施釉 金属でつくる 鍛造「ティースプーンをつくる」 アイデアスケッチ 自己評価
3 学 期	モデリング レンダリング 焼き直し 鍛造 (鍛金) 製図 年間のまとめ 講評会・鑑賞

4. 生徒感想

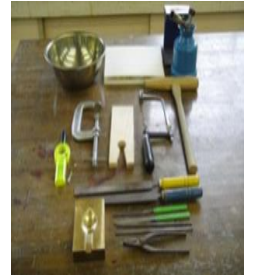
- ・色とかもちゃんと気を使って作りたいと思うようになった。
 - ・自分の作品で実際に飲んでみて、見た目はよさそうでも取っ手が自分の手に合わない形で飲みにくかったり、作品の色がお茶にあっていなかったりと実用性や相性を考えなければならなかった。
 - ・一生懸命に作った作品なので、壊さずに使いたいと思いました。
 - ・自分が作ったものがしっかり使えることが嬉しかった。
 - ・カップ&ソーサーとティースプーンの相性を考えてつくることができた。
 - ・作り方から作品のデザインまで全部自分で考えて作るのが難しかったけれど、期待感を持ってやれたので、良かった。
 - ・湯呑みやマグカップなどで作り方を経験しているのでカップ&ソーサーは、細かいところまで考え丁寧に作れた。でこぼこが少なく施釉もうまくでき、成長したなと思った。
- ※生徒の表現のまま

金工: 鍛金 ティースプーンをつくる(洋白) (12時間)

※洋白: 銅とニッケルの合金。真鍮より硬い。

《道具と材料》

洋白 (30mm×200mm×1.5mm) 工作用紙 ヤットコ
真鍮型 (レール床) すり板 クランプ
ガストーチ 使い捨てライター しゅもく槌
耐水ペーパー 糸鋸 刃 研磨剤 ウエス
けがき針 松葉けがき コンパス



ティースプーン使用道具



卓上ボール盤



すり板を使用して手引き糸鋸で切る



工作用紙でモデリングを作成する



透かしを先に切る



真鍮型を使う



ティースプーン完成

5 題材の評価規準

	工芸への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
題材の評価規準	・よさや美しさに関心をもち、用途の違いによる形・種類の違いを知り、日本の伝統的な表現のよさなどを生かした制作の構想を練ろうとしている。	・感性や想像力を働かせて、使用する人の気持ちや生活環境などを考え表現を工夫することができる。	・陶芸や金工の手順や制作方法を理解し、意図に応じた道具を選択し、自己の制作に活用している。	・制作の特徴を理解し、陶芸・金工のよさや美しさを味わうことができる。 ・制作過程における工夫や素材の生かし方や、技法などを理解している。
学習活動に即した評価規準	・制作の手順や技法を理解しようとしている。 ・失敗しても再度、チャレンジしようとする意欲がみられる。	・用途と美しさの調和を考え、伝統的な表現を踏まえた制作の構想を練っている。 ・作品に求められる機能や条件、美しさなどを整理し、形や色彩、材質などの造形要素や構造、素材の生かし方などについて考え、構想を練っている。	・自己の作品の特徴と制作テーマを考慮して、効果的な装飾や釉薬の選択をし上げることができる。 ・制作全体を見通し、効率的な制作手順や制作に適した技法などを吟味し、意図の実現に向けて工夫しながら制作している。	・自他の表現を比較し、違うよさや美しさに関心をもち、味わう態度がみられる。 ・工芸作品などの表現の工夫や国際理解に果たす工芸の役割、工芸と伝統文化について、理解を深めた。